



『マスターマニュアルを教育に取り上げるにあたり、工夫したこと、良かった点』 姫路クラブ 第23期 教育委員長 沢田 郁

クラブも23年の歴史を重ねる中、もう一度原点に立ち帰り ITC の基本を学ぶ必要性を考え、年間を通して「新マスターマニュアルを学ぶ」ことを昨年度は教育内容にしました。

『評価』『今日の話題』『プログラムリーダー』『会長・議長』等々、各項目は毎例会ごとに慣れ親しんでいる内容であるだけに、当日取り上げる項目の予告はせずに、また講義形式では心に焼き付ける印象も希薄になることを考え、ワークショップ、クイズなどの全員参加の形で重要ポイントの確認を行なう教育の形を採用したことは、今後これらの役割を担当する折の再確認を喚起することになったのではないかと考えています。

際立った内容でもなく、何の目新しい内容でもない、こういった基本を再度学び返すことのクラブレベルでの教育の重要性が認識できたことにも意義を感じています。

新マスターマニュアルの各項目は大変に解り易く説明が施されており、今後の活用を会員に印象づけたことも良い効果であったのではないかと感じつつ一年を締めくくりました。

『今期関西クラブの教育について』(マスターマニュアルを読む)

関西クラブ第33期プログラム・教育委員長 佐藤 良子

目 的

新入会員を前期に1名、今期に1名迎え、入会3年未満の会員が5名となった。この新入会員に ITC の基礎を理解してもらうため、また会員にも再度認識してもらうために、新しいマスターマニュアルを教育で取り上げた。

方 法

毎月の例会の教育の時間に、プログラム・教育委員会のメンバーがマスターマニュアルの担当箇所を読み上げ、説明をする。取り上げる箇所は、会員に前以て予告しておく。会員は読み上げられる箇所を例会にかならず持参する。

取り上げる項目

新入会員に出来るだけ ITC を早く理解してもらうため、まず9月例会では、組織の基本(第6章)と会合の進行手順の基本(第7章)の中から取り上げる。例会の進行手続きを実際のやり方に沿って説明する。10月は ITC の創立月であるので、創始者アーネスティン・ホワイト女史についての説明を取り上げる。